

＜第2回 前林地域会議 会議録＞

日時 令和5年6月29日（木） 19:00～20:30
場所 前林交流館 多目的ホール
出席者 委員 19名
市役所 太田市長、後藤部長、中川室長、奥村室長、中尾課長
事務局 成瀬支所長、吉澤副支所長、天野担当長、山本主査、
山口書記
オブザーバー 石川市議、日當市議、佐野交流館長

1 会長あいさつ〈省略〉

2 提言書の授受〈省略〉

3 市長あいさつ〈省略〉

4 提言内容説明

- ・パワーポイントの資料を用いて、提言内容を副会長より説明

5 市長との意見交換

会長からの意見

- ▶前林は企業との連携をすることで、様々な面で効果を発揮できると思う。豊田市も様々な企業と連携しているが、こういった取り組みの連携をしているのか。

⇒市長より回答

- ▶湿地の保全に関して、湿地保全団体が高齢化しているので、湿地の隣にある企業に協力をお願いし、保全団体がレクチャーしながら湿地保全を支援している。
- ▶災害時の避難場所として、企業の倉庫などを提供してくれるよう連携している。支所を経由してでも良いので、是非企業と意見交換し、連携できる道を模索してほしい。

委員からの意見

- ▶6月の大雨の際に避難所が開設されたが、その情報は市からどのように流れているのか。以前、市に問い合わせをしたらホームページを見ろと言われた。そういう情報ネットワークをしっかりと構築するべきではないか。

⇒市長より回答

- ▶避難勧告は防災ラジオやテレビ、ラジオ等で流れている。災害に対して、多くの人が誰かが何かやってくれると思っている状態が続いている。自己防衛をするべきなので、そういった情報は自分でアクセスして取りに行くべき。

市長より豊田市の交通安全に関する取組に関して説明

- ▶歩行者保護モデルカー活動、止まってくれてありがとう運動について説明。
 - ・歩行者保護モデルカー活動→ドライバー側へのアプローチ
 - ・とまってくれてありがとう運動→歩行者側へのアプローチとまってくれた車に対して、ありがとうの気持ちを伝えることが大切。登下校時に地域の方たちが見守りをしてきているが、その際に止まってくれたドライバーを見て、アイコンタクトでありがとうの気持ちを伝えることも子供たちに教えてほしい。それを習慣づければ、子供たちが1人で出かける時にもドライバーを見て、アイコンタクトで自己防衛をしていけるのではないか。
- ▶アイコンタクトは、歩行者とドライバーだけのことではない。ドライバー同士でも相手のドライバーの目を見て相手の反応を見ることは大切。子供たちに今から習慣づけることで、将来的にも事故を少なくしていけるのではないか。

委員からの意見

- ▶市長の話は大変参考になった。今後交通安全の立哨をする際に、「ありがとう」のバナーを持つようにしたいので、是非作成してほしい。

⇒市長より回答

- ▶「ありがとう」のバナーはすでにあるので、活用してほしい。
- ▶足助地区では、地元の住民が交通ルールを徹底的に守り、他地区から来た人たちの模範となるように努めるモデルカー活動のようなことをして成果を上げている。今後時間のある高齢者が増えるので、そういった取り組みをしていっても良いのではないか。
- ▶現在、部活の地域以降の話が進んでおり、これは地域で部活の受け皿を作るというもの。地域が子供たちに声掛けをして、地域で子供を育てることを目指している。例えば、地域会議の子供版を作って、子供たちにも一緒に地域のことについて考えてもらい、その過程で子供たちとの接点を増やしていくことはできないか。超高齢化社会で子供たちにとっては過酷な時代になるが、子供たちに関わることができる大人の数は増えるので、関わり方を変えていくことができれば、子供たちにとってもっと豊かな時代になるのかもしれないと考えている。

委員からの意見

- ▶先日の大雨の際、前日に休校を決定したのは素晴らしい判断だった。小学生の子供をもつ親としては、当日の朝に休校が決まると親の仕事の都合もつかず、とても困るので、早めの判断はとても助かる。

⇒市長より回答

- ▶これまでの経験から早めの判断をした。ただ、南海トラフの際に想定される液状化に関しては経験がないので危惧している。

委員からの意見

- ▶星ヶ丘自治区で行っている「こんにちは星ヶ丘」の取組を紹介

6 事務連絡

- ・事務局より今後の地域会議の日程について説明